

家畜廃棄物気泡型流動床発電

家畜廃棄物気泡型流動床発電 かちくはいきぶつきほうがたりゅうどうしょうはつでん

家畜廃棄物を燃料とする発電技術の一つである。流動床燃焼では炉床部から流入する空気が高速であるため、炉内物質は沸き立つ気泡と粒子になる。流動床炉では短時間に燃焼を終了させることができ、燃焼制御も容易である。また、水分の多い低発熱量の燃料でも完全に焼却できる。発電コストについては、英国王立工学院の試算では、家畜廃棄物気泡型流動床発電（BFB）が6.8ペンス／kWh（約13.3円／kWh）、波潮力発電が6.6ペンス／kWh（約12.9円／kWh）、陸上風力発電が3.7ペンス／kWh（約7.2円／kWh）、海上風力発電が5.5ペンス／kWh（約10.8円／kWh）、原子力より約1.6～3倍発電コストが高くなる。

<登録年月>

2005年04月
